

免許状更新講習一覧

● 必修領域(「全ての受講者が受講する領域」)

| 開講日 | 講習の名称 | 担当講師 | 講習の概要 | 時間数 (受講料) | 受講人数 | 試験方法 |
|----------|---------|---|---|-----------------|------|------|
| 8月21日(月) | 教育の最新事情 | 八尾坂 修(教育学部教授) 柴原 宜幸(教育学部教授) 寺本 妙子(教育学部教授) | 効果のあるチーム学校としての教師力、家庭・地域連携力、学校文化力、組織・カリキュラムマネジメント力、リーダーシップについて受講者の体験をも踏まえながら考えます。学校支援策の方途について校務負担軽減策(業務の効率化・情報化、タイムマネジメント、専門人材配置、部活動支援)から考えます。次期学習指導要領の特徴、子どもの資質・能力向上と方策を捉えます。 | 6時間 (6,500円) | 60人 | 筆記試験 |

● 選択必修領域(「受講者が所有する免許状の種類、勤務する学校の種類又は教育職員としての経験に応じ、選択して受講する領域」)

| 開講日 | 講習の名称 | 担当講師 | 講習の概要 | 対象 | 時間数 (受講料) | 受講人数 | 試験方法 |
|----------|------------|--------------------|---|-----------------|-----------------|------|------|
| 8月23日(水) | 学校における危機管理 | 柿添 賢之 (特任教授) | 学校の教育課題と同僚性の必要性、学校組織マネジメントとミドルリーダーの役割、学校・家庭・地域社会等との連携と学校の活性化、生徒の学校生活等における危機管理と事件・事故等への対応、教員の服務事故防止とその対応、教員のメンタルヘルスとその対応を内容とします。講義においてはペアワーク、グループワーク等を取り入れ、知識理解にとどまらず、実践的能力につながるよう配慮します。 | 小・中・高教諭 | 6時間 (6,500円) | 30人 | 筆記試験 |
| 8月23日(水) | 道徳教育の理論と方法 | 土井 雅弘 (教育学部准教授) | 平成27年3月の告示により、「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」(道徳科)となり、「考え・議論する道徳」の実践が求められています。本講習では、改正の趣旨や内容を押えた上で、道徳科の特質を踏まえ、これからの道徳科の授業(学習指導)をどのように創り実践していけばよいか、また、どのように評価していけばよいか等を考え学びます。 | 小・中教諭 特別支援教諭 | 6時間 (6,500円) | 30人 | 筆記試験 |

● 選択領域(「受講者が任意に選択して受講する領域」)

| 開講日 | 講習の名称 | 担当講師 | 講習の概要 | 対象 | 時間数 (受講料) | 受講人数 | 試験方法 |
|----------|---------------------------|--------------------|--|-----------------|-----------------|------|------|
| 8月22日(火) | 学級経営につながる国語科教育法 | 遠藤 真司 (教育学部准教授) | 国語科の指導領域である「話す・聞く」「書く」「読む」の言語活動の充実、あらゆる学習の基礎基本を培います。また子どもたちが集まる学級でその集団の力を高めていくには、子ども同士のコミュニケーション力が欠かせません。学級経営と国語科教育は密接な結びつきがあることを明らかにして、両方の指導力を高めていく技術を養う内容を、講義と演習の両面から学んでいきます。 | 小・中・高教諭 (国語) | 6時間 (6,500円) | 20人 | 筆記試験 |
| 8月22日(火) | 漢詩指導法(規則から見る漢詩の美) | 三枝 秀子 (教育学部准教授) | 国語科古典の教材である漢詩の指導法を学びます。漢詩には「形」「押韻」「平仄」「対句」などの規則があります。規則を学ぶことにより漢詩のおもしろさや美しさを再認識することができます。漢和辞典をご持参いただき、一緒に漢和辞典を引き、漢字の詳細を調べながらそれらの規則について確認していきます。これらを漢詩を苦手とする生徒に興味関心を抱かせるための授業・指導に役立てる方策を検討します。 | 中・高教諭 (国語) | 6時間 (6,500円) | 20人 | 筆記試験 |
| 8月22日(火) | アクティブ・ラーニング型の英語の授業について考える | 安田 比呂志 (教育学部教授) | 現在、アクティブ・ラーニング型の英語の授業への取り組みが様々な形で行われています。本講習では、アクティブ・ラーニングの基本的な考え方に関する講義を、第二言語習得論の知見なども含めて行うとともに、受講される先生方に授業の具体例を紹介あるいは提案していただき、それらについて意見交換を行うことで、教育現場におけるアクティブ・ラーニング型の英語の授業の有効性や可能性について検討します。 | 小・中・高教諭 (英語) | 6時間 (6,500円) | 20人 | 筆記試験 |

| 開講日 | 講習の名称 | 担当講師 | 講習の概要 | 対象 | 時間数 (受講料) | 受講人数 | 試験方法 |
|----------|--------------------------------|------------------------|--|---------------------------|-----------------|------|------|
| 8月24日(木) | 生活科のカリキュラム開発 | 小野澤 美明子 (教育学部講師) | 生活科の構成原理や培われる学力、活動を構想する上での着眼点について学び、事例を通して理解を深めます。参加者が実践している生活科の授業についての情報交換をした後(上手くいった実践、上手くいかなかった実践、困っていること、工夫していること、疑問に思っていること等)グループワークによる演習形式で、教材及び単元開発を行います。 | 小学校教諭 | 6時間 (6,500円) | 20人 | 筆記試験 |
| 8月24日(木) | 誰にでもできる音楽づくり・創作の授業 | 坪能 由紀子 (教育学部教授) | 音楽づくり・創作を中心とした授業実践において、音楽の授業をどのように構成していけばよいのかを体験的に学びます。学習指導要領にある〈共通事項〉の位置付けをはじめ、表現と鑑賞の一体化、音楽科における創造性やコミュニケーション能力の育成などの今日的な課題について、受講者全員と共有しながら、学んでいきたいと思えます。 | 小・中・高教諭 (音楽) | 6時間 (6,500円) | 20人 | 筆記試験 |
| 8月24日(木) | 「小品」を使って文学教育の可能性を探る | 佐々木 さよ (教育学部教授) | 「国語」の文学は道徳的教訓的に読むと思い込んだ生徒に困惑したことはないでしょうか。自己を含む人間や人間が生きる社会を広く深く考えたり、教科の枠を超えた学びや正解のない学びへの通路を生徒自らが発見したりできる教科としての可能性を考えるために、「小品」を用いて、近年の文学研究の動向を視野に入れつつ文学教育の今後を受講者と共に探りたいと思えます。言語教育との関連付けにまで発展できたらとも考えています。 | 中・高教諭 (国語) | 6時間 (6,500円) | 20人 | 筆記試験 |
| 8月24日(木) | 思春期の生徒のメンタルヘルス | 佐久間 祐子 (教育学部教授) | 思春期の生徒のメンタルヘルスを維持向上するために必要となるカウンセリング理論とその方法について、講義・演習・議論を通して理解していきます。主なテーマは、いじめ、不登校、非行、自傷行為とします。受講者はカウンセリング・ロールプレイにより生徒・教師・観察者の役割を体験し、実践に役立つ視点を身につけることを目指します。 | 小・中・高教諭、養護教諭、栄養教諭 | 6時間 (6,500円) | 20人 | 筆記試験 |
| 8月25日(金) | 子どもの哲学(哲学対話)を取り入れた学級経営と授業づくり | 土屋 陽介 (開智日本橋学園教諭) | 1970年代以降、「子どもの哲学(Philosophy for Children: P4C)」と呼ばれる哲学対話教育プログラムが、世界各地の学校で草の根的に取り組まれています。この講習では、開智中学・高等学校および開智日本橋学園中学校の道徳の時間に実践されている「哲学対話」の授業の方法を体験的に学習することを通して、受講者が自らの学級経営や授業づくりの中で「子どもの哲学」の手法を取り入れられるようになることを目指します。 | 小・中・高教諭 | 6時間 (6,500円) | 20人 | 筆記試験 |
| 8月25日(金) | 問題解決による算数・数学の授業 | 島田 和昭 (教育学部教授) | 算数・数学の学習過程を児童・生徒自身が問題解決の過程とし、算数・数学の学習内容を拡張的かつ発展的に作り上げていく授業の構成を身につけます。受講者は各自1時間分の指導案を対応する部分の教科書のコピーとともに参加者人数分準備します。問題解決に基づく算数・数学指導の講義の後に、グループに分かれ各自準備した指導案についての討議・検討を行い発表します。また、講師はそれらについてコメントいたします。 | 小・中・高教諭 (算数・数学を担当する教諭) | 6時間 (6,500円) | 20人 | 筆記試験 |
| 8月25日(金) | アクティブ・ラーニング型授業におけるICT機器の活用法を探る | ブルース・フラナガン (教育学部講師) | 本講習ではアクティブ・ラーニング型の英語の授業におけるICT機器の活躍法を検討します。ICT機器の活用例を紹介し、それらを受講者の先生方に試していただくとともに、受講者の先生方からもICT機器の活用に関する提案をしていただきます。これらの実例に関する議論を行うことで、ICT機器の活用の可能性を探っていきます。尚、本講習は、英語で行います。 | 小・中・高教諭 (英語) | 6時間 (6,500円) | 20人 | 筆記試験 |